

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	①学力向上対策の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会において、本市の児童生徒の学力の現状と課題を把握しながら新学習指導要領への対応を図ります。 ・児童生徒の家庭学習の習慣化や学力向上への具体的な取組を指導し、学力向上を推進してしていきます。 				
平成23年度実績	学識経験者、保護者・地域の代表、教育関係者で組織された学力向上検討委員会を3回開催し、学力向上アクションプランⅢ「学習規律や生活習慣を確実に自分のものに ～学習規律や生活習慣の確立をめざして～」を作成しました。各学校へ配信するとともに市のホームページに公開し、各学校・各家庭での活用化を図りました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	授業以外で1時間以上勉強する児童の割合(小学校5年生)(%)	/	43	37	
	授業以外で1時間以上勉強する生徒の割合(中学校2年生)(%)		49	51	
評価の理由	授業以外で1時間以上勉強する児童生徒の割合は小学校5年生では減少しております。中学校2年生では微増ではありますが、学力向上検討委員会での取組ができたため概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学力向上アクションプランの活用状況を検証し、家庭学習の習慣の定着を推進していきます。				

施策の柱	(1)確かな学力の育成			担当課	担当課評価
細 施策	②市独自の少人数学級編制の推進			学校管理課	B
施策の内容	国の35人学級編制の動向を踏まえ、個に応じた教育やよりきめ細かな授業等を目指し、市独自の少人数学級編制の推進を図ります。				
平成23年度実績	中学校1学年で1学級あたり概ね35人を超え、かつ県の少人数学級編制に該当しない中学校9校に、各1人の「少人数学級のための臨時講師(国語1人・数学1人・英語3人・理科1人・音楽1人・美術2人)」を配置しました。これにより、該当学年では1学級増え、1学級あたりの生徒数を少なくすることができました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	臨時講師配置状況(人)	5	6	9	
	対象校に配置した率(%)	62.5	100	90	
評価の理由	学習指導等において、個に応じたきめ細かな指導ができたこと、また、新入生が中学校生活へスムーズに対応できたことなど、概ね順調に進ちよくしています。しかし、各学校の状況に応じた配置等に課題があり、検討の必要もあります。				
改善の方策等	少人数学級については、文部科学省から実態に応じた弾力的な取扱いが求められており、きめ細かな指導の方策について今後更に検討していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(1) 確かな学力の育成			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②市独自の少人数学級編制の推進	学校管理課	B		
学識経験者等 学意	<p>授業以外で勉強する児童生徒の割合だが、生徒はその学年によって特色があるため、小5であればその学年が中2になった時の割合を追っていきけるよう調査を行っていただきたい。</p>				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学力（読む・書く・計算）向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	学習指導要領に基づき、読む・書く・計算の観点を中心に、子どもたちの学力の土台づくりを進め、小・中学校の連携を踏まえ家庭の協力を得た学力向上の推進を図ります。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上検討委員会において、学習規律について検討し、学力の土台づくりとなる学習や生活規律に関する資料を各学校へ情報発信しました。 ・「教育に関する3つの達成目標」の各学校の実践報告を広め、学力向上を図りました。 ・各学校の年間指導計画に「教育に関する3つの達成目標」との関連を位置づけ、授業等で実践できるようにしました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	小学校「読む・書く・計算」 達成率90%以上の項目 (各学年2項目×6学年)	10項目／12項目	10項目／12項目	11項目／12項目	
	中学校「読む・書く・計算」 達成率90%以上の項目 (各学年2項目×3学年)	1項目／6項目	3項目／6項目	4項目／6項目	
評価の理由	学校での指導の工夫改善や家庭への啓発により、小・中学校とも「読む・書く・計算」の達成率が90%を上回る項目が増加し、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	授業を中心に「読む・書く・計算」といった基礎的な学力を身に付けられるよう、指導法の工夫改善を図るほか、学習の基盤となる学習規律を整えられるようにします。				

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②規律ある態度の育成			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせます。 ・学校が家庭や地域と連携を密にし、思いやりや感謝の心、公共心、善悪を判断する力など、豊かな心を育みます。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全市立小・中学校で「教育に関する3つの達成目標」に向け、具体的な取組を推進しました。 ・家庭と連携して学習規律や学習習慣の大切さを伝えるため、川越市学力向上アクションプランパート3「学習規律や生活習慣を確実に自分のものにー学習規律や生活習慣の確立をめざしてー」を作成し、各学校に配布するとともに、市のホームページにも公開し、これらの活用に取り組みました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	小学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×6学年)	56項目／72項目	58項目／72項目	65項目／72項目	
	中学校・規律ある態度達成率80%以上の項目(各学年12項目×3学年)	26項目／36項目	33項目／36項目	32項目／36項目	
評価の理由	市内の児童生徒を対象とした質問紙調査の結果、達成率が80%以上の項目数が増加しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	学校・家庭で川越市学力向上アクションプランを効果的に活用できるよう、学校指導訪問等の機会に規律ある態度を育成していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進			教育指導課	B
施策の内容	豊かな人間性や生きる力の重要な要素である基礎的な体力を向上させるために、家庭や地域との連携を図りながら、児童生徒の発達段階に応じた効果的な体力向上の取組を充実します。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度川越市児童生徒体力向上推進委員会で、体力向上全体研修会の実施、授業研究会の実施、冊子「体力向上をめざして」「じゃんぷ」「小中新体力テスト」の発行を行い、食育や睡眠等の生活習慣について、家庭においても啓発を行いました。 運動の特性に触れる体育・保健体育の授業の充実の他、小学校での体力向上に関する取組(朝マラソンや休み時間を使った運動)、中学校での部活動の充実について指導しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	前年度より結果のよい種目(小学校)	握力・長座体前屈(女子)	上体起こし・シャトルラン(男子)	上体起こし(男子)	
	前年度より結果のよい種目(中学校)	50m走・ボール投げ(男女) 握力・上体起こし(男子)	ボール投げ(男女) 50m走(男女)	50m走(男女) ボール投げ(男子)	
評価の理由	運動する楽しさを重視した授業や朝マラソン等体力向上に係る工夫した取組が、各学校の工夫のもとに展開されており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 男女共通の「反復横跳び」に加え、男子は「長座体前屈」女子は「上体起こし」を川越市体力重点課題として取り組みます。 体力向上推進委員会を通して体力重点課題を設定し、課題解決策を検討して実践に生かします。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(2)教育に関する3つの達成目標の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学力(読む・書く・計算)向上の推進	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成	教育指導課	B		
③体力向上の推進	教育指導課	B			
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある態度の育成のため、川越市学力向上アクションプランを家庭及び学校が一体となり、家庭に向けての働きかけを進め、効果的に活用していくべきである。 部活動は、良き指導者に恵まれることが重要であるので、育成のためのカリキュラムの作成や招致を行っていただきたい。 				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①小学校・中学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小中学校を、8ブロックに分け、それぞれのブロックごとに小中学校間の連携を一層進めてまいります。 校長のリーダーシップのもと、教育委員会からも指導主事を配置するなどサポートをしながら、課題を明確にして各学校で行ってきた連携の取組の見直しや改善を図り、学校教育の一層の充実・活性化を図ります。 				
平成23年度実績	各ブロックごとの研究委嘱校を中心に、教員間では小中合同授業研究会を行い、系統的な学習指導についての研究協議が行われました。児童生徒間では、中学校への1日体験入学や訪問・インタビューなどの交流が行われました。さらに、保護者・地域間では、地域の様々な活動に児童生徒が参加することにより、地域に根ざした学校づくりを推進することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	中学1年生不登校者数(人)	49	35	45	
	中学1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	1.36	1.00	1.34	
評価の理由	各校の実践報告書のまとめの比較(H22→H23)によると、「教員に関わる連携」では合同研究会・連絡会89%→96%、「児童生徒に関わる連携」では授業・部活動での交流48%→52%、「地域に関わる連携」での合同のPTA活動が13%→41%と向上し、概ね順調に進ちよくしています。しかし、中学1年生の不登校者数は、前年度比で増加してしまいました。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 時間と場の工夫・体制づくりに努めます。具体的には、ブロック編成の在り方について中学校区を基本としながら、隣接する学校間での連携を行うように見直します。 系統性を意識した授業の実施に努めます。具体的には、小中学校9年間にわたる教材の確認から指導方法の工夫改善を進めます。 				

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進			学校管理課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を図ります。 「第二次市立川越高等学校将来構想懇話会」の報告結果を基に、中高一貫教育について調査研究を進めます。 				
平成23年度実績	平成23年度の研究委嘱校間(市立川越高等学校と近隣の中学校3校)では、教員相互の授業参観、研究協議、高校教員による中学校での出前授業、生徒相互の部活動交流、上級学校訪問を実施しました。さらに、新たに高校での体験授業(中学2年生7クラス全員による国語・数学・理科・情報)が行われ、連携を深めることができました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	教員・保護者間の交流活動件数(件)		14	23	
	生徒間の交流件数(件)		3	14	
評価の理由	実施初年度は、中学校と高校の教員・保護者との交流が中心でしたが、平成23年度はこの教員間の連携と併せて、部活動の相互交流や合同練習、中学生の高校での体験授業など、新たな連携に取り組み、概ね順調に進ちよくしております。今後、より多くの市内各中学校との連携に拡大することが課題です。				
改善の方策等	校種間における連携が拡大するよう、系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす取組を実施します。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進			教育指導課	A
施策の内容	幼保小連絡懇談会を通して、幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの役割の理解を深めるとともに、課題解決に向けた情報を共有するとともによりよい連携の在り方について話し合い、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図ります。				
平成23年度実績	幼保小連絡懇談会を6会場で実施し、「幼保小の連携の在り方」をテーマに話し合いができました。また、各会場の記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に関連用冊子を配布しました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	参加園・校数	93	97	98	
	参加人数(人)	211	224	230	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡懇談会への参加園・校および参加者数が増加しています。 ・幼保小連絡懇談会では、「小1プロブレム」の解消に向け、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を目指した話し合いができ、幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの役割の理解を深めることができました。さらに、課題解決に向けた情報を共有することができ、順調に進捗しています。 				
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校の教職員へ周知し、今後も参加園・参加者の拡大を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(3)校種間連携の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	B	B	
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・市立川越高等学校連携の授業に参加して非常に良い経験になったという意見を聞いている。高校見学と違った形で高校を知ることができるので、どんどんこのような機会を与えてほしい。 ・小学校・中学校連携の推進では、不登校の実績だけでなく、数字に出てこない良い部分の成果実績も入れていただきたい。 ・今後も更に児童生徒の連携を強めていただきたい。 				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施策	①道徳教育の充実						教育指導課	B
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。							
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師研修会を年2回実施しました。 ・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。 ・各学校の全体計画に道徳を位置づけ、学校の教育活動全体で道徳教育を推進しました。 							
成果実績	項目名(単位)	H21		H22		H23		
	教育に関する3つの達成目標・規律ある態度「整理整頓・あいさつ・やさしい言葉づかい」集団の場での態度・清掃美化活動」達成率80%以上の項目(各学年5項目)	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	
		25/30項目	10/15項目	26/30項目	15/15項目	29/30項目	14/15項目	
評価の理由	道徳教育推進教師研修会や学校訪問等を通して、学校教育活動全体で道徳教育における推進体制の構築・運営、指導力の向上を図ることができ、概ね順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	道徳推進教師を中心とした校内組織を整備し、家庭・地域との連携した取組と、道徳授業の充実を推進します。							

施策の柱	(4)生徒指導の充実						担当課	担当課評価
細 施策	②いじめ・不登校対策の推進						教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年生で急増するいじめ・不登校問題の対応については、小中連携を中心とした校種間連携の中で取組を推進します。 ・いじめ・不登校対策検討委員会を通して、具体的な取組を推進します。 							
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携を中心とした校種間連携の中で取組を推進しました。 ・いじめ・不登校対策検討委員会で、いじめや不登校問題の防止や対応についてまとめたリーフレットを作成しました。 ・いじめは、小学校では認知件数16件中13件が解消(平成22年度は認知件数14件中11件が解消)、中学校は認知件数30件すべてが解消(平成22年度は30件中22件が解消)しました。 							
指標及び説明	【指標】 中学校の不登校出現率				【説明】 市内全中学校の生徒数のうち不登校生徒数の割合			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値					目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26	
	%	3.33	2.63	2.59				2.75
評価の理由	不登校傾向の見られる児童生徒に対し、家庭訪問をするなど早期対応に努めたほか、さわやか相談員による相談活動、小中連携個票の活用などの取組により、不登校の出現率が目標値を下回り、概ね順調に進ちよくしております。しかし、依然として不登校は課題であり、未然防止と対応について、更に取組を推進する必要があります。							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやか相談員の面接及び電話による相談活動と配置の拡大、相談室に通う生徒への対応の充実を図り、今後更に不登校児童生徒を減らす取組をしていきます。 ・いじめの防止や早期発見に向け、調査を定期的実施し、いじめを発見した場合は組織的に対応し、いじめの解消に取り組めます。また、家庭・地域と連携し、生命を大切に心身の教育に一層取り組みます。さらに、いじめ問題への対応を徹底するために、児童生徒、保護者に対してメッセージを発信したり、市内の市立学校へ一斉にアンケートを実施していきます。 							

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実					担当課	担当課評価
細 施 策	③教育相談の充実					教育センター分室(リバーラ)	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 スクールカウンセラーや教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、小学校の児童、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。 						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内全中学校に1名ずつ配置したさわやか相談員が、小・中学生、その保護者等延べ10,330人の相談に対応しました。 週1回から3週間に1回の割合で配置されているスクールカウンセラーが、生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて7,948回の相談を行いました。 						
指標及び説明	【指標】さわやか相談員がかかわりを持ち、解決した割合			【説明】市内全中学校に配置したさわやか相談員が受けた相談件数のうち解決した(相談が終了した)件数の割合			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	66.8	82.9	84.0			75.0
評価の理由	さわやか相談員がいじめや不登校、学業や友人関係などの相談に応じ、解決した(相談が終了した)割合が目標値を上回る84.0%となり、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後もさわやか相談員、スクールカウンセラーなどと連携し、不安や悩みをもつ児童生徒やその保護者への教育相談体制の充実を図ります。						

施策の柱	(4)生徒指導の充実					担当課	担当課評価
細 施 策	④関係機関との連携事業					教育指導課	B
施策の内容	課題解決のために、教育センター分室(リバーラ)、庁内子育て支援課、児童相談所、警察署等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 教育センターといじめ・不登校対策検討委員会を合同で組織し、問題解決のために協力して取り組みました。 子育て支援課、児童相談所とは児童虐待の問題で、情報を共有するなど連携して対応しました。 学校と川越警察署生活安全課が連携して児童・生徒の問題行動に対応できるよう、連絡・調整を行いました。また、スクールサポーターの配置を要請し、2校に配置されました。 学校・地域・警察関係者によるサポートチームが6校で組織されました。 中学校全22校が、警察に生徒指導上の連絡・相談をしたり、非行防止教室の講師を依頼するなど連携を推進しました。 						
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23			
	サポートチームの編成数(校)	2	3	6			
評価の理由	課題に応じて適切に情報交換を行い、きめ細かな対応を図ることができ、特に中学校における暴力行為(対教師・生徒間・対人暴力および器物破損)の件数が減少しており、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に関する連携では、心配な児童生徒について事前に情報交換するなど、問題発生時のみの連携にならないようにします。 多様な生徒指導の問題への対応について、各学校の取組を集め指導の手立てを広めるなど、迅速に問題解決が図れるようにします。 各学校の実情に応じ、今後更に警察との連携を進め、学校と一体となった取組を行ってまいります。 						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4)生徒指導の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤いきいき登校サポートプランの推進			教育センター分室(リベール)	A
施策の内容	市内小中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業の「いきいき登校サポートプラン」を更に推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度は、14人の学生に委嘱し、13人の学生が活動を行いました。そのうち7人が学校での活動、6人が家庭訪問を行い、延べ173回の活動をしました。10ケース中9ケースについて、教室への部分復帰や相談室・保健室登校等などの学校復帰が図れました。 臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を実施できました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	活動した学生実人数(人)	12	9	13	
	活動回数(回)	171	110	173	
評価の理由	昨年度より多くの大学生による不登校児童生徒支援により、教室への部分復帰等も含め、学校復帰が図れた件数の割合が増加し、順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	関係の大学と連携し、大学生による不登校児童生徒支援を充実させるとともに、臨床心理士による対応をより一層推進します。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(4) 生徒指導の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	B	
	②いじめ・不登校対策の推進	教育指導課	B		
	③教育相談の充実	教育センター分室(リベール)	A		
	④関係機関との連携事業	教育指導課	B		
⑤いきいき登校サポートプランの推進	教育センター分室(リベール)	A			
学識経験者意見等	教育相談の充実、いきいき登校サポートプランの推進については、実績も素晴らしく、非常に評価できる。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりを大切にしたい進路指導・キャリア教育の一層の充実に努めます。 ・中学校では、地域にある事業所や公共施設での体験活動を通して川越市中学生社会体験事業の充実を図ります。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導・キャリア教育研修会を実施し、小学校のキャリア教育の実践発表を行いました。 ・川越市中学生社会体験を全校で実施し、終了後、今後の生活にどう生かすかについてのアンケート調査を実施し、結果を指導に活用しました。 ・川越市中学生社会体験実施協議会を開催し、関係団体との連携を図り事業の円滑な運営に資することができました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	協力事業所数(箇所)	753	771	828	
評価の理由	<p>全校が計画通り、事業を実施することができました。また、「働くことの大切さや意味を考える機会となった」「仕事をするために協力する大切さが理解できた」「社会のきまりを守る大切さを理解できた」「働くことの厳しさ大変さを知ることができた」「人の言うことをしっかり聞くことの大切さを理解することができた」かの調査に、80%以上の生徒が「そう思う」(ややそう思うを加えると98%以上)と回答しているため、順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<p>体験を今後の生活につなげる視点からの質問に対しては、「そう思う」が50%、ややそう思うが40%となっています。事後指導の中で、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。</p>				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(5)進路指導・キャリア教育の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	細施策	施策の柱	
			A	A	
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験活動は子どもにとって非常に有効であり、必要性も高いので継続して実施していただきたい。 ・社会体験活動を今後の生活につなげ、生かす視点を取り入れるよう指導してもらいたい。 				A

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6)科学体験活動の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進			教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組を充実します。 ・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を充実させ推進します。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生73人を対象に、1日目に講演会、2日目に実験実習、3日目に日本科学未来館で体験学習を行いました。 ・理科実験助手派遣事業により、小学校においては毎年ローテーションで6校に、中学校は希望校3校に理科実験助手を派遣しました。 ・小・中・大学連携理科ふれあい事業により、小学校13校・中学校4校が事業を実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	理科実験助手派遣事業派遣数(校)	8(小:5 中:3)	10(小:7 中:3)	9(小:6 中:3)	
	小・中・大学連携理科ふれあい事業(校)	12(小:12)	10(小:9 中:1)	17(小:13 中:4)	
評価の理由	<p>科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒からは、理科に対する興味関心が高まったととれる感想が寄せられています。また、理科実験助手事業もローテーションが進み、科学体験活動は順調に進ちよくしています。</p>				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体験事業や小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学や研究機関との連携を積極的に進め、理科に関する興味関心を広げるとともに理科離れの対策ができるようにします。 ・小学校に理科実験助手の派遣を毎年順々に実施し、市内全校に派遣し、理科実験助手が配置されている間に教員の実験の準備や取組などのスキルを高められるようにします。 				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(6) 科学体験活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A	A	
学識経験者等 意見	特になし				A

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校評議員制度の充実			学校管理課	B
施策の内容	学校は、評議員に学校の現状と課題について情報提供を行い、情報の共有化を図るとともに、保護者や地域住民から信頼される学校経営ができるよう学校評議員制度の充実を図ります。				
平成23年度実績	学校の現状と課題に即して、積極的な意見交換のもと、活発な話し合いによる学校評議員会議が実施されています。特に各学校の学校評価において、学校評議員が学校関係者である割合が増加し、開かれた学校づくりに寄与していると考えられます。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	学校評議員が学校関係者になっている学校	54/56	56/56	55/56	
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56	
評価の理由	ほとんどの市立学校で、学校評議員が学校関係評価における評価者になっています。保護者や地域住民等の意識の把握、反映だけでなく、学校運営の状況等を周知するなど学校としての説明責任を果たしており、順調に進ちよくしていますが、今後更に結果を公表する場や機会を増やしていく必要があります。				
改善の方策等	各学校で教育活動等について自己評価を行い、その結果を公表するとともに、多様な意見を幅広く求め、学校運営に生かすために積極的な情報提供を行っていきます。				

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②地域人材活用事業の充実			学校管理課	A
施策の内容	小・中・特別支援学校が、特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、地域人材活用事業の一層の充実を図ります。				
平成23年度実績	各学校が計画的・継続的に活用し、活用予定数275回に対して、特色ある学校づくり支援の報償金の範囲内で、活用実施数635回(対予定数231%)となり、内容、回数とも有効に活用できました。また、地域人材の活用により具体的な活動や体験ができ、特色ある学校づくりに向け順調に進ちよくしています。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	活用回数(回)	574	600	635	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては、地域人材を活用した教育活動を年間指導計画に位置付け、計画的・継続的に実施しました。 ・地域特有の文化を体験できるような活動が実施できました。 				
改善の方策等	各学校で、多様な地域人材活用が推進されてきている状況の中、ボランティアによる活用方法の工夫を図っていきます。また、協力者に対して、傷害・賠償責任保険で対応するなどの工夫をします。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7)地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実			学校管理課	B
施策の内容	各学校に在籍する外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。				
平成23年度実績	平成23年度は、市立小中学校17校に在籍する外国籍の児童生徒で日本語指導ボランティアの申請があった27人中24人に対して、ボランティア10人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ424回でした。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	申請受付数(人)	29	37	27	
	日本語ボランティア派遣児童生徒数(人)	27	34	24	
評価の理由	日本語指導ボランティアを派遣することによって、該当児童生徒が授業内容の理解を深め、また、周囲とのコミュニケーションの手助けとなる援助と指導を行うことができ、概ね順調に進ちよくしています。しかし、申請された児童生徒すべてに対し日本語指導ボランティアを派遣できていないことが課題です。				
改善の方策等	在籍する児童生徒の母語の多様化により日本語ボランティアに求められる言語も多様化しており、それに対応できる人材を確保できるよう、関係機関との連携を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(7) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①学校評議員制度の充実	学校管理課	B	B	
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	A		
③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	B			
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員制度について、学校が抱える問題点を公表し、地域ぐるみで問題解決していけるようお願いしたい。 ・学校の問題については、PTA会長にすべて話すようにしてもらいたい。 				B

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	①経験・職能別研修の充実					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。 ・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。 						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・経験段階に応じた研修として、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、20年経験者研修等を実施しました。 ・職能別研修として、主幹教諭、教務主任、学校事務職員、栄養教諭・学校栄養教員、初任者研修拠点校指導教員、学校保健・道徳教育・特別支援教育・教育相談・学校図書館教育・情報教育・進路指導キャリア教育の各担当者、非常勤職員等を対象とした研修会を開催しました。 						
指標及び説明	【指標】 教職員の研修参加回数			【説明】 教職員一人が1年間に研修に参加する回数			
指標の推移	単位	基準値 (H21)	実 績 値				目標値 (H27)
	回	4.1	H22 4.4	H23 5.1	H24	H25	H26
評価の理由	研修内容の整理と細分化を図る研修体系の見直しを行い、研修回数の実績値が昨年と比べ増加し、目標値を上回っており、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後も経験者研修等のライフステージに応じた研修を重視し、教職員の経験に応じた資質・能力の向上を図ります。また、講師及び指導者の質の充実に努めます。						

施策の柱	(8)教職員の資質向上					担当課	担当課評価
細 施 策	②管理職等研修の充実					学校管理課	B
施策の内容	教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。						
平成23年度実績	校長、教頭を対象とした研修会を実施しました。(校長研修会、教頭研修会、一人一人を大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会、校種間連携教育研修会)						
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23			
	研修会の実施回数(回)	18	21	21			
評価の理由	学校訪問における管理職ヒアリング、人事評価における校長ヒアリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、概ね順調に進ちよくしています。校長を補佐する教頭等が教育や学校連携に関する見識を高め、学校の組織力をより向上させていくことが今後の課題です。						
改善の方策等	今後は、校長を助け、補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図り、学校の組織マネジメント力を強化していきます。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	③奨励研修の充実			教育センター	B
施策の内容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間で奨励研修に参加した教職員の人数は、延べ914人で、昨年度より99人増加しました。 ・文部科学省の教科調査官、国立教育政策研究所や大学教授等、各分野における第一線講師陣を迎え、より専門性の高い研修会を実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	講座数(回)	25	38	37	
	参加延べ人数(人)	782	815	914	
評価の理由	教員のニーズに応じた研修会を企画し、研修内容を周知したことで、参加者数が増加しており、概ね順調に進ちよしております。また、参加者による研修に対する5段階評価の平均は4.6と高く、感想からも意欲や意識の向上が見られました。				
改善の方策等	川越市教職員のより一層の資質向上のため、奨励研修の内容について見直し・改善を図り、幅広い実践的指導力の向上を目指します。				

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	④かわごえ異業種体験研修事業の推進			学校管理課	B
施策の内容	教員以外の民間の職業を直接体験することにより、再度教育職を見直し、多面的で柔軟な教育指導ができる教員の育成を目指し、かわごえ異業種体験研修の推進を図ります。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度は10人の教員が異業種体験研修を行い、平成15年度より延べ86人が体験しました。 ・教員が教職以外の職業を直接体験することにより、幅広い社会の見方や考え方を身に付けることができ、再度教育職を見直す機会となりました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	体験教員数(人)	9	10	10	
評価の理由	教員以外の民間の職業を直接体験することにより、教育指導や保護者対応に対して柔軟な教育活動ができるようになり、概ね順調に進ちよしています。しかし、教職経験15年前後の教員が少なく、各学校の研修参加者の推薦者が難しくなっています。				
改善の方策等	現在の教員の年齢層にあわせて、体験する教員の年齢層に幅を持たせて実施していきます。また、受入先の新規事業所を開拓し、推進していくことが必要です。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上			担当課	担当課評価
細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進			学校管理課	B
施策の内容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関等の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に波及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。				
平成23年度実績	平成23年度は、予備校における指導法の研修に国語科(現代文)2講座・地歴公民科(政治経済)1講座に2名の教員が参加しました。その成果を教科会で報告し、授業における指導法の改善、進学補習の工夫等について、共通理解し、組織的な取組として効果を上げました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	延べ研修参加教員数(人)	10	13	16	
	全教員数に占める割合(%)	20.4	27.7	36.4	
評価の理由	研修に参加した教員数・割合は増加し、概ね順調に進ちよくしていますが、全教員数に占める割合はまだ30%台です。				
改善の方策等	今後も継続的に研修に取り組み、教員数、割合の向上を図ります。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(8)教職員の資質向上				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④かわごえ異業種体験研修事業の推進	学校管理課	B		
⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課	B			
学識経験者等意見	大学等進学指導力向上研修の推進については、市立高校将来構想の提言のなかでも重要性が強調されているところなので、今後も充実を図ってほしい。				

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課		担当課評価	
細 施 策	①就学支援委員会の充実			教育センター分室(リベール)		B	
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、教育上特別な措置又は支援を必要とする者に対して、一人ひとりのニーズに応じた教育的診断を行い、就学の適正化を図るために、専門医、学識経験者、教育関係者、行政経験者で構成する就学支援委員会の充実を推進していきます。						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・就学支援が必要な児童生徒への、諸検査の実施や学校訪問による観察等により、児童生徒の状況を的確に把握し、適正な就学先を判断しました。また、訪問等で、該当の児童生徒の状況や就学先に係る話し合いを校長をはじめ関係教職員や保護者とを行い、一人ひとりのニーズの把握に役立てました。 ・就学支援委員会の委員の研修を通して、共通理解のもと、判断に必要な情報を十分に収集しました。 						
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23			
	就学支援委員会実施回数(回)	26	28	29			
	臨時の就学相談回数(回)	—	22	49			
	就学相談実施人数(人)	192	218	223			
評価の理由	年々就学相談実施人数が増加しています。学校訪問などを通して、児童生徒の情報収集に努め、一人ひとりへの適正な就学先を判断し、支援する取組ができたため概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生については、卒業後の進路を考慮した就学相談を行う必要があります。今後、県立特別支援学校、市立特別支援学校とより一層の連携を図ります。 ・学校訪問では、該当の児童生徒の様子を適切に把握できるよう、学校への十分な説明を行い、訪問時の授業の形態や内容についての工夫を依頼します。 						

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課		担当課評価	
細 施 策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実			教育センター分室(リベール)		B	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを充実させるとともに、自立支援サポーターの活用を図り、通常学級における支援の推進に努めます。 ・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた指導を実施し支援の充実を図ります。 ・小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実を努めます。 						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーター養成研修会は、3回実施し、資質の向上を図りました。 ・特別支援教育支援員(自立支援サポーターを含む)研修会を実施し、多様な児童生徒の障害について理解を深め、円滑な職務遂行ができるようにしました。 						
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23			
	対応した児童数(人)	390	427	465			
	対応した生徒数(人)	25	22	30			
評価の理由	自立支援サポーターにより、児童465人、生徒30人に対応し、昨年度に比べ増加しており、通常の学級に在籍する個別の支援が必要な児童生徒への、よりきめ細かな支援を行うことができたため、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	今後も各市立小・中学校への自立支援サポーターの配置を進めていくとともに、自立支援サポーター等に対する研修の充実を図り、一人ひとりの適切な指導・支援に努めます。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進			教育センター分室(リベール)	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレット「みんななかよく」(小学校用)「共に生きる」(中学校用)及び活用方法についての学級活動指導案を作成しました。 ・保護者等対象の「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」、特別支援学級の授業公開(年2回)を行い、保護者等への特別支援教育に関する情報提供により理解・啓発を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」参加者(人)	11	12	30	
	特別支援学級授業公開参観者(人)	278	235	308	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒理解のためのパンフレット「みんななかよく」(小学校用)「共に生きる」(中学校用)、また、パンフレットを有効活用するための学級活動指導案を作成することができたため、概ね順調に進ちよくしています。 ・就学相談セミナーや発達障害セミナーの開催、特別支援学級授業公開など、多くの保護者等へ特別支援教育に関する理解を深める場を提供することができたため、概ね順調に進ちよくしています。 				
改善の方策等	保護者への情報提供、障害に関する理解などをより一層啓発するため、セミナーへの参加を促す方法等の改善に努めます。また、各学校での交流及び共同学習等を更に推進します。				

施策の柱	(9)特別支援教育の充実			担当課	担当課評価		
細 施 策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実			教育センター分室(リベール)	B		
施策の内容	市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割が担えるよう支援体制の整備を推進します。						
平成23年度実績	市立特別支援学校のセンター的機能に基づき、48件の相談、研修等に対応しました。 (内訳) 保護者との面接相談 8件 特別な配慮が必要な児童生徒についての小中学校への指導援助 13件 小中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施 25件 その他(ケース会議)2件						
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23			
	特別支援学校のセンター的機能による対応数(件)	保護者	23	保護者	10	保護者	8
		学校	3	学校	5	学校	13
		研修	4	研修	12	研修	25
		その他	10	その他	14	その他	2
合計		40	合計	31	合計	48	
評価の理由	市立特別支援学校のセンター的機能を研修会等で紹介したことで、研修や小・中学校への対応件数が増加したため、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	市立特別支援学校のセンター的機能の役割や内容について、各市立学校に対し、更に周知を図ります。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(9) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①就学支援委員会の充実	教育センター分室(リベール)	B	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター分室(リベール)	B		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター分室(リベール)	B		
④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター分室(リベール)	B			
学識経験者等 学意 見	特になし				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施 策	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	
施策の内容	<p>・国際化の進展に対応し、広い視野と国際感覚を持った児童生徒を育成するため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手の充実・推進を図ります。</p> <p>・小学校での学級担任教員との英語活動や中・高等学校での英語担当教員との共同授業において、英語指導助手をより効果的に活用できる配置を進めていきます。</p>			
平成23年度実績	<p>現地採用3人、KET2人、派遣契約16人の英語指導助手(AET)を配置しました。</p> <p><訪問実績> 英語指導助手(AET) 21人 小学校 769日 中学校 2,464日 市立川越高等学校 160日 合計 3,393日</p>			
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23
	配置人数(人)	21	21	21
	1校あたりの年間訪問日数(日)	小47.5 中83.7	小51.4 中90.7	小24.0 中112.0
評価の理由	<p>全市立学校への計画的な配置を進めることができ、中学校の訪問日数は前年度と比べ増加したため、概ね順調に進ちよしています。</p>			
改善の方策等	<p>全市立学校の児童生徒の英語力の向上、国際理解教育の推進には、雇用人数及び質的確保が必要です。今後も、現地採用、川越市姉妹都市交流に基づく招致(KET)とともに、派遣業務の英語指導助手(AET)の業者選定方法の見直しも含め、雇用人数及び質の確保に努めます。</p>			

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進	担当課	担当課評価	
細 施 策	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B	
施策の内容	<p>小学校5・6年生での外国語活動の時間に、英語ノートや川越市小学校外国語活動研究委員会が作成した資料を活用し、担任教師と英語指導助手が協力して、英語に親しむことのできる授業の充実・推進を図ります。</p>			
平成23年度実績	<p>・小学校の外国語(英語)活動の時間では、英語を通じて言語や文化についての体験的な理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図りました。英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる活動に取り組みました。</p> <p>・川越市小学校外国語活動研究委員会で、小学校5・6年生に対する意識調査を行った結果、外国語活動を「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童は、5年生で91%、6年生で87%であり、関心・意欲は概ね良好であると言えます。</p>			
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)		3.83	4.29
	小学校第5・6学年1学級当たりの英語指導助手(AET)の年間訪問回数(日)	8.6	9	4.8
評価の理由	<p>小学校外国語活動でのAETの1日平均授業時数が、昨年度に比べ増えています。また、児童の関心・意欲は、意識調査の結果から概ね良好であると言えます。</p>			
改善の方策等	<p>外国語活動のより一層の充実を図るため、授業での英語指導助手(AET)の積極的な活用を推進します。</p>			

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施策	③中学校英語教育の充実			教育センター	B
施策の内容	英語指導助手(AET)の効果的な活用、教員の指導力の向上を図り、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能のバランスを取りながら、体験的・実践的な英語教育の充実を推進していきます。				
平成23年度実績	中学校では、英語担当教諭と英語指導助手(AET)との共同授業を通して、言語の使用場面や言語の働きに配慮したコミュニケーション活動を充実させ、生徒が主体的に取り組む授業づくりを推進しました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)		3.33	3.39	
評価の理由	昨年度より1日あたりの授業時数が増加し、各学校での共同授業が円滑に進められたため、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	平成24年度から、中学校学習指導要領の全面実施に伴い、英語の授業時数が週3時間から週4時間に増加しました。今後も、更にコミュニケーション能力の基礎・基本の定着を図るため、英語指導助手(AET)の効果的な活用を推進します。				

施策の柱	(10)英語教育・外国語(英語)活動及び国際理解教育の推進			担当課	担当課評価
細 施策	④国際理解教育の推進			教育センター	B
施策の内容	・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。(再掲) ・国際理解教育の充実・推進を図ります。				
平成23年度実績	・日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒に42回の日本語指導を実施しました。 ・市立小・中・高・特別支援学校教員を対象に国際理解教育研修会を実施しました。 ・市立小学校を2つのブロックに分け、ブロックごとに1校が外国語活動の授業公開を行い、研究協議を行いました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	国際理解教育研修会実施数(回)	3	3	3	
	参加延べ人数(人)	187	173	116	
評価の理由	小学校では、新学習指導要領全面実施に伴い、外国語活動に重点をおいた国際理解教育を推進しました。市立小・中学校の国際理解教育若しくは外国語活動担当教員が1回以上研修に参加することができ、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	国際理解教育の推進のため、小学校外国語活動の授業公開・研究協議を行ってまいりましたが、更にブロックの編成等を工夫し、研究協議の内容が各学校に反映されるように努めます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(10) 英語教育・外国語（英語）活動及び国際理解教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	B	B
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	B		
	③中学校英語教育の充実	教育センター	B		
	④国際理解教育の推進	教育センター	B		
学識経験者 意見等	小学校外国語活動の推進については、生徒から楽しかったなどの感想があったが、訪問回数が下がってしまっているのが惜しい印象を受ける。				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進					担当課	担当課評価
細 施策	①ICT教育の推進					教育センター	B
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報の収集・活用・発信という主体的な学習ができるよう推進します。						
平成23年度実績	小学校・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、それぞれ平成22年度32.2回、18.9回から平成23年度36.8回、25.4回と増加しました。小学校では、新学習指導要領の全面実施に伴い、新しい教科書に準拠したデジタル教科書(国語・算数・社会は5,6年生用、理科は3年生以上)を全小学校に導入しました。授業でのデジタル教科書活用回数は、1校あたり78回でした。						
指標及び説明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用授業回数			【説明】 市内全小学校のうち1学級当たり1年間にICT(情報通信技術)を活用した授業の実施回数			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	回	28	32.2	36.8			35
評価の理由	授業におけるICT活用授業回数の実績値が昨年度に比べ増えており、概ね順調に進ちよくしていますが、学校ごとの活用回数の差が課題となっています。						
改善の方策等	児童生徒の情報活用能力の向上のため、電子黒板とデジタル教科書の操作方法を研修会等を通して広め、授業での更なる活用を推進します。						

施策の柱	(11)情報教育の推進					担当課	担当課評価
細 施策	②情報モラル教育の推進					教育センター	B
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、情報教育推進委員会、管理職や情報化推進リーダー等を対象にした情報モラル教育の研修を体系的に推進します。						
平成23年度実績	中学校の情報モラル教育は、技術家庭科(技術分野)の年間指導計画に全校位置付けています。また、小・中学校の道徳教育全体計画への位置付けは、小学校15校、中学校12校です。平成23年度の情報モラル指導は、1校あたり小学校で19.9回、中学校で19.2回でした。						
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合(文部科学省及び川越市独自調査)			【説明】 市内全中学校の教員のうち情報モラルに関する指導ができる教員の割合			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%/校	66	75	76			80
評価の理由	情報モラルに関する指導ができる教員の割合が、基準値と比べ増加し、平成22、23年度の実績値は横ばいではありますが、概ね順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	道徳教育全体計画及び年間指導計画への位置付けを徹底して行います。また、教育センター主催の情報モラル教育に関する研修会等を通して、教職員の指導力向上を図ります。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用			教育センター	B
施策の内容	小・中学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため電子黒板やプロジェクタ等の周辺機器を更に充実し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校10校の教育用コンピュータの更新で、これまでの移動が難しいボード型電子黒板から、携帯型電子黒板の複数導入に変更し、普通教室でICT(情報通信技術)を活用した授業を行う環境を整備しました。 ・校務用パソコンの活用率の増加に伴い、プリンタの使用率も増加したため、職員室と校長室にモノクロレーザープリンタを各1台ずつ導入し、校務の効率化を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	校務にICTを活用できる小学校教員の割合(%)	94.5	95.5	96.5	
	校務にICTを活用できる中学校教員の割合(%)	88.5	94.8	94.4	
評価の理由	平成21年度の校務用コンピュータの導入により、校務で活用できる教職員の割合が増加し、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	現在整備されている情報機器の活用場をを広げ、学習活動における情報機器活用の質の向上を図ります。また、教員の情報機器活用技術の向上のため、技能に応じた研修会を充実します。さらに、情報機器を有効に活用するための情報ネットワークについても、研究・検討を行っていきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(11)情報教育の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	B	B	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	B		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	B			
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育は、道徳や技術家庭科の授業だと時間が限られてくるので、ホームルームや学級活動などで取り扱っていくと良いだろう。 ・情報モラルは、青少年が今後生きていく上の重要な核となると考える。 ・青少年が抱える課題を把握し、解決に向けた取組を行っていくべきである。 				B

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価
細 施策	①読書活動啓発推進事業			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」の取組、中学生には「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。 家庭には読書活動啓発リーフレットを保護者に配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 小学生には「小江戸読書マラソン」、中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、活用しました。「小江戸中学生読書手帳」については、生徒の興味関心を考えて紹介されている本を見直し、話題の本も掲載しました。 家庭用に保護者に対して読書活動啓発リーフレットを配布しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	小学校における年間平均読書冊数(冊)	45.0	49.6	52.5	
	中学生読書手帳に記入された平均読書数(冊)	6.2	10.2	9.7	
評価の理由	「小江戸読書マラソン」「小江戸中学生読書手帳」の活用の成果もあり、読書冊数の増加が見られ、児童生徒の読書活動の推進につながっており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の質と量を含めた学校図書館の充実を図ります。 「小江戸読書マラソン」や「小江戸中学生読書手帳」について、研修会等を通じてより積極的な活用を促すなど、読書活動の推進に取り組みます。 				

施策の柱	(12)読書活動の推進			担当課	担当課評価		
細 施策	②図書館司書による読書活動の推進			中央図書館	A		
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持ってもらうため、図書館司書の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。						
平成23年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。						
指標及び説明	【指標】 図書館司書による学校訪問等の回数(校数)			【説明】 市立小学校3年生の各学級を対象に本の紹介などを行う			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)
			H22	H23	H24	H25	
	回	20	32	32			
校	20	32	32				32
評価の理由	司書による学校訪問等により、児童生徒の読書活動の推進に努めました。						
改善の方策等	市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介などを行います。						

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③図書館から学校への団体貸出の推進						中央図書館	C
施策の内容	児童生徒たちの読書要求に応えるため、市立図書館から学校への団体貸出を推進します。							
平成23年度実績	児童生徒たちへ「テーマ」に沿った図書を、市内小学校23校に延べ68回、4,543冊、中学校7校に延べ8回、615冊貸出しました。							
指標及び説明	【指標】 学校への団体貸出数			【説明】 市内小中高校の各学級を対象に100冊を上限に1ヶ月間貸出する冊数				
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	冊	5,725	6,886	5,158			8,000	
評価の理由	中学校への貸出冊数は615冊で、平成22年度(358冊)と比べて約70%増でしたが、小学校への貸出冊数は4,543冊で、22年度(6,528冊)と比べて約30%減でした。このため、小・中学校の合計としては、平成22年度と比べて約25%減となりました。							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高校の先生たちに事業のPRをします。 ・児童生徒たちの読書要求に応える図書を紹介します。 							

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(12)読書活動の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①読書活動啓発推進事業	教育指導課	B	B	
	②図書館司書による読書活動の推進	中央図書館	A		
③図書館から学校への団体貸出の推進	中央図書館	C			
学識経験者等意見	図書館司書の学校訪問を小学校だけでなく中学校にも拡大していただきたい。				B

【方向性】 1 生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	①学校保健活動の推進			教育指導課	A
施策の内容	学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めるとともに、歯・口の健康づくりや薬物乱用防止教育・性に関する教育等の保健教育や学校保健活動を推進します。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における定期健康診断等の実施をしました。 ・学校環境衛生検査として飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性物質検査、砂場の細菌検査、ダニ・アレルゲン検査を実施しました。問題があった場合は、指導により改善を図りました。 ・放射性物質への対応として、プール水の検査の他、空間放射線量の測定を実施しました。 ・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。 ・薬物乱用防止教育においては、薬物乱用防止教室を全校で実施し、健全な心身の育成に向けた取組をしました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	薬物乱用防止教室の実施状況	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	
評価の理由	全ての検査等を適切に実施し、問題のあった場合は改善を指導し、再検査等で状況を確認しています。また、全校で児童生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施するなど順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	放射線の問題等、新たな課題に取り組み、衛生的で安全な学習環境を維持します。また、薬物乱用防止教育をさらに充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。				

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進			担当課	担当課評価
細 施 策	②安全・安心の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育、安全指導を推進します。 ・登下校等における児童生徒の安全確保のための通学路の安全点検、スクールガード・リーダーの配置、地域ボランティアによるパトロール等、地域及び関係機関等との連携を図り、安全・安心の取組を推進します。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガード・リーダー養成講習会を実施しました。 ・各学校に通学路点検の指示をし、改善要望をとりまとめ、安全安心生活課に提出しました。 ・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を実施しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	スクールガード・リーダー養成講習会参加者数(人)	102	99	107	
評価の理由	小学校全校にスクールガード・リーダーを委嘱することができました。また、関係課との連携により通学路の整備が進められ、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車による運転の問題が多く、重大な事故につながらないよう、交通安全の指導を継続的に実施します。 ・危険箇所の点検を定期的実施し、要望書の提出を受けて危険箇所の把握に努めるとともに、関係課と速やかに連携していきます。 				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進						担当課	担当課評価
細 施 策	③体力向上の推進						教育指導課	B
施策の内容	「川越市児童生徒体力向上推進委員会」の取組や、近隣の大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。							
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「川越市児童生徒体力向上推進委員会」を開催し、授業研究会および「じゃんぷ」を発行しました。 ・「トップアスリートふれあい事業」により、東洋大学と連携し、陸上競技部のコーチ・学生を市立小学校8校に派遣し、3,592人の児童が参加しました。 ・市立全小中学校で新体力テストを実施し、結果をまとめました。 							
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価(5段階)で3段階以上の割合				【説明】 市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)	
			H22	H23	H24	H25	H26	
	%	82.6	83.2	83.7			90.0	
評価の理由	「トップアスリートふれあい事業」は、計画どおり実施し、児童の走ることへの意欲が高められました。また、市内全中学校生徒の新体力テスト総合評価基準表の上位3段階生徒の割合は、平成21年度より増加していることから、概ね順調に進ちよくしています。							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で実施した新体力テストの分析により、「反復横跳び・長座体前屈(男子)・上体起こし(女子)」を川越市体力重点課題とし、全体的な体力向上に向け、学校生活や授業の改善に取り組みます。 ・川越市児童生徒体力向上推進委員会により、効果的な指導方法を研究します。また、小中の連携により、9年間を見通した体力向上に取り組みます。 							

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(13)健康の保持増進と安全・体力向上の推進					
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
			細施策	施策の柱		
	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	B		
	②安全・安心の推進	教育指導課	B			
③体力向上の推進	教育指導課	B				
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートふれあい事業は、非常に良い機会なので陸上のみならず色々なスポーツに触れる機会をもうけていただきたい。 ・通学路の危険箇所の改善について、今後も継続してお願いしたい。 				B	

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	①人事評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	教職員人事評価システムを有効に活用し、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、校長を中心とする学校組織の活性化や人事評価の充実を目指します。				
平成23年度実績	年度当初に教職員自らが掲げた目標についての達成状況及び職務遂行の過程で発揮された能力や執務姿勢を総合的に評価し、資質向上を図りました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	校長に対する年間 面談回数(回)	168	168	168	
	教職員に対する年 間面談回数(回)	4,808	5,036	4,980	
評価の理由	「埼玉県市町村立学校職員の人事評価に関する規則」及び「埼玉県市町村立学校職員の人事評価実施要領」に基づき、各学校が設定した目指す学校像と重点目標を踏まえて達成目標を策定し、自己評価と評価者評価を通して教職員の資質・能力の向上に活用され、概ね順調に進ちよくしています。しかし、評価に中心化傾向があります。				
改善の方策等	年度当初面談で目標設定における困難度の設定に留意させるなど、メリハリのある評価ができるよう指導していきます。				

施策の柱	(14)学校の評価充実			担当課	担当課評価
細 施策	②学校評価の充実			学校管理課	B
施策の内容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を目指します。				
平成23年度実績	各学校が、外部アンケート等を積極的に活用し自己評価を行い、更に学校関係者評価(学校に関係するPTA、地域住民、学校評議員、学識経験者等による学校評価)を通して課題や改善点を整理し、学校運営改善に活用しています。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	「自己評価」におけるA評価の割合(%)	23.2	25.6	31.4	
	「学校関係者評価」におけるA評価の割合(%)	36.8	39.7	51.9	
評価の理由	自己評価にある評価理由及び改善策を提示し、それを踏まえて学校関係者評価を市立学校全校で行い、概ね順調に進ちよくしています。しかし、評価項目に具体性を欠くものが見られました。				
改善の方策等	自己評価や学校関係者評価を受けて、抽象的な表現ではなく全職員が共通認識を持って課題を改善できるよう、具体的な方策を各学校に指導していきます。				

【方向性】 I－生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 生きる力と豊かな人間性を育む教育の推進

施策の柱		(14) 学校の評価充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①人事評価の充実	学校管理課	B	B	B
	②学校評価の充実	学校管理課	B		
学識経験者等 学意 見	特になし				

- 【方向性】 1 一生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	①学校施設の耐震化の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域住民の避難場所となるなど重要な役割を担っていることから、学校施設の耐震化に向け耐震補強工事を計画的に取り組みます。						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 耐震補強設計業務 5校 (小学校1校 中学校4校) 耐震補強工事 15校 (小学校10校 中学校5校) 						
指標及び説明	【指標】 学校施設の耐震化の推進			【説明】 市内のすべての公立小中学校の耐震化の割合			
指標の推移	単位	基準値 (H21)	実績値				目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	63	76	93			100
評価の理由	平成24年度を完了年度とした「川越市小中学校耐震化推進計画」に基づき順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	平成24年度に全学校施設の耐震化が完了します。						

施策の柱	(1)学校施設の整備・充実					担当課	担当課評価
細 施 策	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進					教育財務課	A
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため大規模改造工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> 「川越市小中学校大規模改造計画」の策定 体育館の耐震補強工事に併せて大規模改造工事を実施(小学校3校 中学校3校) 						
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進			【説明】 市内のすべての公立小中学校の大規模改造工事の実施割合			
指標の推移	単位	基準値 (H21)	実績値				目標値 (H27)
			H22	H23	H24	H25	H26
	%	44	52	54			59
評価の理由	老朽化した学校施設の改修を計画的に行うため「川越市小中学校大規模改造計画」を策定いたしました。また、体育館の耐震補強工事に併せて大規模改造工事を小中学校合わせて6校実施いたしましたので、順調に進ちよくしています。						
改善の方策等	学校施設の耐久性の確保、施設の機能改善、教育環境の改善を図るため、「川越市小中学校大規模改造計画」に基づき、大規模改造工事を進めてまいります。						

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(1) 学校施設の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校施設の耐震化の推進	教育財務課	A	A	A
	②大規模改造工事等学校施設の整備の推進	教育財務課	A		
学識経験者等 学意見	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市は他市と比べ、耐震化予算を使っただきありがたい。 ・平成24年度で耐震化については終了するので、その後は大規模改造を推進していただきたい。 				A

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化			担当課	担当課評価
細 施 策	①小・中学校の通学区域・規模等の検討			学校管理課	C
施策の内容	今後の川越市立小中学校の在り方検討委員会において、「通学区域に関すること」、「余裕教室の活用に関すること」、「今後の望ましい学校数(学校の統廃合や存続等)に関すること」、「その他」の視点で検討し、将来にわたり適正な小中学校の通学区域・規模等を調査研究していきます。				
平成23年度実績	川越市立小中学校の在り方検討委員会を開催し、通学区制度の弾力化運用を推進するため、平成13年2月に定めた「指定校変更・区域外通学の取扱いについて」の内容を、指定校変更の点から協議しました。				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	小中学校の在り方検討委員会開催回数(回)	1	1	1	
	検討内容	今後の統廃合の見通しについて	余裕教室の活用に関すること	指定校変更、区域外就学について	
評価の理由	指定校変更や区域外通学の内容を見直し、通学区制度の弾力的運用について検討してきましたが、まだ不十分で順調とは言えません。				
改善の方策等	児童生徒数の増減に伴う小中学校の在り方については、地域により状況が様々であり、それぞれへの対応について引き続き検討することが必要となります。今後は、児童生徒数の推移を把握するとともに、大型集合住宅の建設、大規模地域開発予定等を掌握し、他課と連携しながら更に検討をしていきます。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(2)小・中学校の適正配置と通学区域の弾力化				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①小・中学校の通学区域・規模等の検討	学校管理課	細施策	施策の柱	
			C	C	
学識経験者意見等	南古谷地区における児童生徒数の増加に対応すべく通学区域の弾力化などを、計画的に進めていっていただきたい。				C

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①司書教諭・図書整理員の配置			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営の充実を図り、学校図書館を活用した学習指導を一層推進します。 ・司書教諭や図書整理員の研修等を通して読書好きの児童生徒を増やし、子どもの読書活動を活発にするために、司書教諭や図書整理員の研修等を通して、創意工夫をこらした学校図書館の中で、子どもの読書活動が充実するように努めます。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭、図書整理員とも全校に配置しました。(図書整理員は30名を複数校配置で対応) ・子ども読書活動推進研修会を実施し、司書教諭を中心に児童生徒の読書活動推進のための研修を実施しました。また、魅力ある学校図書館をつくる図書整理員研修会を年4回実施し、学校図書館の充実を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	学校図書館の貸出数(小学校)(冊)	363,802	377,340	380,856	
	学校図書館の貸出数(中学校)(冊)	20,853	25,579	29,621	
評価の理由	研修会を通して、司書教諭・図書整理員の職務内容の充実が図られました。また、計画的な研修により学校図書館の整備と活用が促進され、貸出冊数も増加しているため、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	「全校一斉朝読書」など読書活動の時間を設けたり、教科の指導等で学校図書館の利用を促進し、生徒が本に触れる機会を増やします。				

施策の柱	(3)学校図書館の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②蔵書の充実			教育指導課	B
施策の内容	学校教育の中で、学校図書館の活用の充実が図れるよう、子どもの要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書を計画的に購入し、蔵書の充実に努めます。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。 ・住民生活に光をそそぐ交付金を活用し、「知の地域づくり」として、図書を購入しました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	図書標準の達成率(小学校)(%)	68.0	70.6	74.8	
	図書標準の達成率(中学校)(%)	79.8	82.3	85.7	
評価の理由	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は向上しており、概ね順調に進ちよくしています。				
改善の方策等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替により、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(3) 学校図書館の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①司書教諭・図書整理員の配置	教育指導課	B	B	B
	②蔵書の充実	教育指導課	B		
学識経験者等 学意 識 経 験 者 等 見 見	特になし				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①食育の推進			教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、学校給食を通じた食に関する指導に加え、教科等と連携した食に関する指導の推進に努めます。 ・効果的な食に関する指導を推進するため、栄養教諭制度等の指導体制の整備を推進するとともに、学校、家庭、地域への啓発、情報提供など、連携した取組を目指します。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「食に関する指導法研修会」を実施し、栄養教諭・学校栄養職員研修会と合同で実施しました。 ・全校で年間指導計画を作成し、全体計画・指導計画に食育が位置付けられました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	必ず朝食をとる割合(小5)(%)	91.1	91.0	89.7	
	必ず朝食をとる割合(中2)(%)	82.6	82.6	83.8	
評価の理由	朝食をとる割合は、平成23年度では小学校・中学校とも県の平均を下回っていますが、給食の時間の他、家庭科との授業とも連携して、バランスのよい食事や地産地消などの考え方について、学ぶ機会が増えてきており、概ね順調に進ちよしています。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県の「早寝、早起き、朝ご飯」の運動を推進します。 ・食育についての研修を今後も計画的に実施します。 				

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価		
細 施 策	②給食内容の充実			学校給食課	B		
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心でおいしい給食を提供するため、栄養的にバランスの取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。 ・学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。 						
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における摂取基準に基づいた学校給食を小学校・中学校で188回実施しました。 ・農産物等の産地証明、残留農薬証明等を求め、給食材料の安全性を確保しました。 ・地産地消の考えから主食米については、川越産米約235t、野菜については約81t(17品目)使用しました。 ・食材について、12月から月2回、1度につき2品目の放射性物質検査をしました。 						
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用拡大			【説明】 学校給食への川越産野菜使用割合			
指標の推移	単位	基準値(H21)	実績値				目標値(H27)
	%	19.3	H22 8.8	H23 19.1	H24	H25	H26
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度は天候不順や猛暑の影響で、地場産の使用割合が大幅に下がってしまいましたが、23年度は天候も安定し、目標値に近い割合で地場産を使用することができました。 ・食材の安全性を確保するため、放射性物質の検査を実施しました。 						
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れる方法を検討していきます。 ・更なる食材の安全性確保のため、放射性物質の検査品目・回数を増やしていきます。 						

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実			担当課	担当課評価
細 施 策	③学校給食施設の整備			学校給食課	C
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターは老朽化が進んでいるため、施設の更新を計画的に推進していきます。 ・学校給食の安全性の向上を図るため、調理場のドライ化を推進します。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新学校給食センターPFI導入可能性調査等を実施しました。 ・今成学校給食センター揚物機等改修工事と藤間学校給食センター重油タンク設置等工事を実施しました。 ・各学校給食センターの維持管理のため、優先度をつけて修繕を実施しました。 ・調理場のドライ化を推進し、学校給食の安全性の向上を図りました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	改修工事	検収室改修工事(今成)	洗浄室空調設備改修工事(今成)	揚物機等改修工事(今成),重油タンク設置等工事(藤間)	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事は少しずつ進んでいます。 ・維持管理のための修繕は、緊急対応の修繕が多く発生したことにより、十分に実施されていません。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急修繕以外のものは計画的に維持管理のための修繕を実施します。 ・藤間学校給食センターと吉田学校給食センターについては、PFIの実施も含め、更新を計画していきます。 				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(4)学校給食の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①食育の推進	教育指導課	B	B	
	②給食内容の充実	学校給食課	B		
③学校給食施設の整備	学校給食課	C			
学識経験者意見等	昨今、様々な食べ物がまん延している中で、子ども自身が良いもの、悪いものを判断できるような指導を進めていただきたい。				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進			市立川越高等学校	B
施策の内容	第二次川越市立川越高等学校将来構想懇話会を設置し、「学科編制の在り方」「学校・学級規模の在り方」「教員の研修の在り方」「中高連携や中高一貫教育の在り方」について検討し、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学級編制の改善 きめ細かな指導の充実を図るため、1年生すべての学科で35人の少人数学級を編制しました。 ・地域特別選抜の導入 地域の人材を地域で育成するため、中高の連携に努め、市内生の比率を高めました。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	市内生の比率(%)	34.9	34.0	40.3	
評価の理由	少人数学級編制と地域特別選抜は平成24年度入試から実施しました。市内生の比率については、平成23年度入試の34%と比較して6.3%増の40.3%になりました。				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の教育内容や指導力、部活動競技力の更なる充実を図り、今後、難関大学等への現役合格者数・率や商業系資格取得者数を向上させていきます。 ・学級編制の改善、地域特別選抜の導入について、その成果を検証するために追跡調査を実施します。 				

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(5)市立川越高等学校の改革・充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	市立川越高等学校	細施策	施策の柱	
			B	B	
学識経験者等 意見	特になし				B

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進
 【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実			教育センター	C
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、市民も活用できる施設となるよう推進します。 ・1階施設や体育館及び運動場は、市民に対して積極的に開放していき、研修施設としての設備は計画的に整備し、教育センター機能の充実を図っていきます。 				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに12室にエアコンを設置し、研修環境を整えました。 ・体育館、グラウンドの他にセンター1階の利用可能施設を、大人・児童用スペース(普通教室サイズ3室)、図書室(2室)、学習室(1室)、相談室(1室)、メモリアルルームとして整備しました。 ・体育館、グラウンドの一般利用団体は、スポーツ団体が12団体、子ども会、自治会等の地域団体とが5団体で、延べ7,612人の利用がありました。また、センター1階の一般利用者は、延べ944人でした。 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	1階施設利用者数(人)		1,411	944	
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)		394 / 15,246	231 / 7,612	
評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度は、東日本大震災の被災者受け入れのために7月まで施設開放ができず、利用回数及び利用者数が減少しました。7月以降は、利用者が徐々に増加しましたが、あまり順調ではありませんでした。 ・研修設備として、空調設備は整備できましたが、排煙装置の整備ができませんでした。 				
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を公民館だより等に掲載し、地域住民への周知を図ります。 ・研修施設としての整備を進めていきます。 				

施策の柱	(6)教育センターの充実			担当課	担当課評価
細 施 策	②家庭・地域との連携研修の充実			教育センター	B
施策の内容	不登校や情報モラル教育の諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域との相互理解を目的とした家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。				
平成23年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の研修会を2回実施しました。(平成22年度から実施) ①講義「不登校児童生徒への援助のあり方」 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の現状と課題 ・不登校0を目指して ②講義「情報モラル教育の進め方」 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で取り組む情報モラル指導 ・携帯電話等による諸問題の解決に向けて 				
成果実績	項目名(単位)	H21	H22	H23	
	研修会の開催(回)		2	2	
	参加者数(人)		87	73	
評価の理由	学校と家庭で相互理解を目的とした研修会を開催し、参加者数はやや減少しましたが、参加者からは、参加して良かった、保護者会等で報告したいという感想があり、概ね順調に進ちょくしています。				
改善の方策等	保護者の参加者を増やすために、研修会開催通知とともに講演会のリーフレットを作成及び添付し、各学校を通して保護者への周知を図り、参加を促進します。また、各学校へ研修内容の家庭・地域連携に係る研修等への活用を促します。				

【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 安全・安心で質の高い教育を支える教育環境の整備・充実

施策の柱		(6) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	C	B	B
	②家庭・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 学意見	教育センターの駐車スペースが少ないのもっと確保していただきたい。				